

<b>Title</b>	序
<b>Author(s)</b>	大木, 英夫
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, No.2, 1991.12 : 3-4
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2983">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2983</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

## 序

ここに聖学院大学総合研究所紀要第二号を発行するにあたり、本号が和独二カ国語のものとなったことについて、背景を述べさせていただきます。昨年十一月十六日、聖学院駒込キャンパスの女子聖学院会議室で、ドイツのカッセル大学のヨハネス・ヴァイス教授を迎え聖学院大学総合研究所第八回公開講演会が行われました。題は「宗教史から宗教社会学へ——エルンスト・トレルチとマックス・ヴェーバー」で、日本におけるこの方面の研究者も参加し、真剣な討議による知的交流の機会をもつことができました。続いて一九九一年三月十八日には、池袋サンシャインシティの国際会議場で、テュービンゲン大学教授で、ヴェーバー研究の権威者であるフリードリヒ・テンブルック教授、それから二年前に一度聖学院大学総合研究所に来て講演して下さった有名な宗教社会学者でエアランゲン大学のヨアヒム・マッテス教授を迎え、日本からはトレルチ研究の第一人者近藤勝彦教授が参加して国際的シンポジウム「ヴェーバーとトレルチの宗教社会学をめぐる」が開かれました。これらは、日本語だけで読まれるには惜しい、まことに国際的な知的交流に相応しい高度な内容のもので、ドイツ語の人々にも読んで頂きたいと思ひ、その通訳にあたった小林純氏（立教大学助教授）、土方透氏（聖学院大学専任講師）、荒木忠義氏（聖学院大学総合研究所）諸氏のご協力によって、

ドイツ語と日本語の両テキストを掲載することに致しました。なお、後者のシンポジウムは、ウェーバーの会、ドイツ文化・社会史学会、ドイツ社会学研究会の協賛を得たこともあって、この種の会には珍しい百数十名の出席者があり、活発な質疑がありました。聖学院大学総合研究所は、このような国際的な知的交流を今後とも推進して行きたいと考えております。

その際、休憩時間に、聖学院大学がプロテスタンティズムの伝統を日本に受け継いでいくことを目的として設立された大学であることを、テンブルック教授、マッテス教授と話しましたところ、プロテスタンティズムの祖国ドイツを意識されてか、本大学の設立の理念に大変興味をもたれ、これからの交流に意欲を示されました。もちろんわれわれは、プロテスタンティズムをドイツに限定されたものとしてでなく、その英米的発展に、ヴェーバーやトルルチが示したような関心をもっております。現在その研究計画が進行中である、総合研究所の共同研究「デモクラシーとプロテスタンティズム」は、本研究所の問題意識の方向を示すものであります。ところで、この共同研究は、私学振興財団の助成の対象となりました。本研究所の目的達成のため今後とも各位のご支援をお願い致します。

一九九一年十一月十三日

聖学院大学総合研究所長 大木英夫